

## 令和5年度 第2回魚沼市子ども・子育て会議 会議録

1. 日時	令和6年2月28日(水) 13:30~14:50					
2. 会場	魚沼市役所(本庁舎) 3階 303会議室					
3. 出席者 (敬称略)	魚沼市子ども・子育て会議委員					
	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
	会長	佐々木 政彦	○	委員	遠山 登志子	○
	副会長	目黒 和男	○	〃	羽鳥 敦子	○
	委員	瀧澤 祐美子	欠(委任状)	〃	長谷川 美紀子	○
	〃	星野 香織	○	〃	松井 由紀子	欠(委任状)
	〃	中村 和子	○	〃	星 敏夫	○
	〃	中澤 京子	○	〃	櫻井 悦子	○
	〃	山本 都子	○	〃	高橋 静枝	○
	〃	清水 明次	○			
事務局(魚沼市教育委員会事務局)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長: 樋口 健一</li> <li>・母子保健係長: 江口 博子</li> <li>・事務局長: 吉澤 国明</li> <li>・保育園幼稚園係長: 瀬下 彩子</li> <li>・子ども課長: 関 祐樹</li> <li>・児童福祉係長: 小西 政勝</li> <li>・子育て支援センター長: 星 真人</li> </ul>						
4. 資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議次第</li> <li>・魚沼市公立保育園等再編計画「個別再編方針」(素案) <span style="float: right;">資料No.1</span></li> <li>・魚沼市こども家庭センター <span style="float: right;">資料No.2</span></li> <li>・子ども・子育て支援ニーズ調査について <span style="float: right;">資料No.3</span></li> </ul>					
5. 会議概要	(説明、質疑、意見、答弁内容等の要旨をまとめました。)					
事務局	<p><b>1 開会</b></p> <p>これより、令和5年度第2回魚沼市子ども・子育て会議を開会いたします。</p> <p><b>定足数の報告</b></p> <p>出席委員13名、委任状2名、計15名。半数以上の出席があり、会議成立。</p>					
教育長	<p><b>2 教育長あいさつ</b></p> <p>年度末を迎えまして、いろいろとご対応のところ、第2回の会議にご参加いただきまして、大変ありがとうございます。</p> <p>今週末は高校の卒業式が始まりまして、来週は中学校の卒業式が始まっていきます。保育園等も締めくくりの時期で大変お忙しいとは思いますが、いつも子どもたちの育成にご尽力いただきまして感謝を申し上げます。</p> <p>さて、令和3年10月に策定しました魚沼市公立保育園等再編計画につきまして、策定時点と保育園の状況が大きく変動したことから、個別の再編計画の策定が求め</p>					

	<p>られておりました。今年度は民営化に向けて、サウンディング調査という形式で事業者と話し合いを進めながら、その可能性を探ってきました。そういうことも含め、この再編計画に入ってくる個別の計画につきまして、今日は、ご審議をいただければと思っているところであります。</p> <p>また、午前中、校長会があり、そこでもお話しましたが、令和4年度の出生数が本市では134人でした。令和5年度は、まだ3月がありますので推定ですけど、143人の見込です。本当に激しく少子化が進んでおりますので、小中学校の学区再編についても検討を始めないといけないと思っているところですが、保育園につきましては、地域密着という部分もありますので、今のところ現在のままということで考えております。そのへんも含めまして、また皆さんからのご意見をいただきながら慎重審議を進めていただければと思っております。よろしく願い申し上げます。</p>
事務局	<p>規定に基づき、会長が議長となります。 これより進行を会長からお願いいたします。</p>
	<p><b>3 議 事</b></p>
議 長	<p>まず最初に、魚沼市公立保育園等再編計画「個別再編方針」について、事務局から説明を求めます。</p>
事務局	<p>(資料No.1 について説明)</p>
	<p>(質疑)</p>
委 員	<p>何点か質問をお願いします。</p>
	<p>1点目は、いくつかの保育園が、災害時の指定避難所や福祉避難所になっております。クーラーとかトイレとか、施設面で一定の充実を図っていると思いますが、整備の状況をお願いします。</p> <p>それから耐用年数という言葉が出てきておりますが、主に建物のどういうものなのかということと、建築基準法が改正になって、地震に対する耐震化が求められてきていると思いますが、現時点で耐震化がまだ終わっていない施設はないと思いますが、耐震化工事についてはどうなっているのかということ。</p> <p>それから3点目は、いくつかの保育園が放課後児童クラブの場所になっております。ふたば西保育園は、小学校のかつての低学年棟が学童の場所になっておりますが、今後、地域要望や市としての方向性が出ているのか。例えば学校に集約していきたいとか、そういう考えがあるのかどうか、3点ほどお聞きしたいと思います。</p>
議 長	<p>それでは、3点について回答をお願いします。</p>
事務局	<p>1点目の避難所のことです。堀之内地域のなかよし保育園と広神地域のふたば西、</p>

	<p>ふたば東保育園が指定避難所ということになっております。また、なかよし保育園につきましても、福祉避難所も併設している状況です。基本的に冷暖房は完備されていますので、いわゆるライフラインと言いますか、電気や水が通っている状態であれば、クーラーや暖房はつけられる状態です。トイレにつきましても、水が来なかったり、電気が来なかったりした場合は、下水道が使えない状況にもなると思いますので、そういったときのトイレ対応は現行施設では限界となり、避難者全員が快適に使えるようなトイレの配置というのはなされていない状態であります。</p> <p>施設の耐震化につきましては、後から回答をしたいと思います。</p> <p>次に、放課後児童クラブにつきましても、今のところは、学校外にある放課後児童クラブを学校内に移そうというような動きや計画はございません。ただ、施設の老朽化等が考えられる場合は、そういったことも検討していく必要はあるかと思っております。</p>
事務局長	<p>耐震基準につきましては、旧耐震基準のときに建設された保育園は、ひがし保育園と伊米ヶ崎保育園になります。ひがし保育園は、令和6年度末で閉園ということになっておりますので、耐震化はしないということでございます。伊米ヶ崎保育園も旧耐震基準のときに建設された建物ではあるんですが、構造的に平屋であって耐震化を義務づけられた建物ではないということでもあります。ただし、古い建物には間違いありませんので、改修の時期をどうするかというのは、先程の課長の説明のとおり、更なる少子化が進むのか老朽度がどうなるかというのを見込んだ上で検討したいと思います。</p> <p>それから耐用年数の考え方ですが、鉄筋コンクリート造、建築年度が50年で機械的に算出した公共施設再編計画における耐用年数ということでもあります。耐用年数到来イコール使えないということではありませんが、建築年度と構造から機械的に出した数値ということではあります、一つの基準、目安にはなるというふうに考えます。</p>
議 長	<p>他にご質問ご意見はございませんでしょうか。</p>
委 員	<p>1回目の保育園や幼稚園の統廃合のときに、私は関わっています。もうだいぶ前に、いろんな面で議論したかと思えます。ただ、その時は何も変わりませんでした。結果として、現状維持でここまで進んできたんだと思えます。</p> <p>ただその間に、だいぶ子どもの数は減ってきているのに、現状として、当時と同じくらいの保育園の数があるということは、いろんな面で厳しいのではないかなというふうに感じています。令和7年度で保育園に入る子どもの数がピークに達するという厚生労働省の資料を見ました。その後は、需要と供給のバランスが逆転してくるんじゃないかという、全国でもそういう規模になっている中で、もうかなり子どもの数も減っているのに、この数を今まで維持してきたっていうことも驚きなのかなというふうに感じています。</p>

<p>議 長</p>	<p>今の説明で、今後さらに減ったらということですが、さらにながれくらい減ったらということなのか、一体この中のいくつを民営化にして、いくつを公立に残すのか、魚沼市はどのような方向性でこれを考えているのか、お聞かせいただきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、事務局回答をお願いします。</p> <p>令和7年度に子どものピークを迎えるというお話がありましたが、魚沼市の現状で言いますと、第2子無償化が始まった時に、一時的に未満児の保育が急激に増えて保育士が足りないという状況がありました。ただ現状を見ると、未満児の入園率は、今大体85%ぐらいです。1歳児については、5割から6割ぐらいですので、入園率はもう既にピークに達していると考えています。近年、出生数が1年で15%ずつ、2~3年前から約30%も急激に減っているの、未満児も減っている状況です。したがって、いわゆる入園、保育ニーズと言いますか、その人数については、魚沼市としてはもうピークアウト、一つの大きな山を越えたかなというような認識しております。</p>
<p>議 長</p>	<p>どのくらい減ったら公立の保育園がいくつになるのかという質問ですが、現状は減らさない、現状維持という計画になっています。基本的には、利用定員の調整をしながら、公立の利用定員を下げ民間園の入園が公立に多く流れないような、そういった形にはしていきたいと思っていますところ。保育園の数につきましては、老朽化をしている施設を建て替えるとか、統合するとかは、具体的な計画はありませんが、例えば旧町村単位で公立は1園体制にするとか、そういったことも今後検討していくことになるのかなというふうには考えております。</p>
<p>委 員</p>	<p>よろしいでしょうか。他にご質問はございませんでしょうか。</p>
<p>議 長</p>	<p>魚沼市公立保育園等再編計画の12ページに、「サウンディング調査の結果は、現時点では公表を控える」と記載されています。公表を控えることはわかるんですが、関連事業者は、その影響を少なからず受ける可能性があるの、実施年のどれくらい前に、できればできるだけ早く結果を知りたいというのが本心です。ただ、いろいろな制約があると思いますので、どれくらい前に知ることができるのかということと、園児の定員に関してはどういう扱いにされるのか、公立園の時の定員がそのまま継続されるのか、絞られるのか、広がる可能性もあるのか、その辺はどうでしょうか。</p>
<p>議 長</p>	<p>事務局回答をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>定員につきましては、基本的には公立のものを継承してもらおうというようなことになろうかと思っております。</p>

委員	<p>公表というのは、どこの園が対象だったか、ということでしょうか。</p> <p>応募の方じゃなくて、どこの園が対象になるのか、どちらの公立園が民間移譲されるのかということです。</p>
事務局	<p>調査としては、公立全8園を対象にした訳なんですけど、その中の1園について意欲を示す事業者がいたというようなことです。それについては、今後も公表はしない予定としております。</p>
事務局長	<p>サウンディング調査、市場型調査は、一般的にはノウハウの保護ということもあり、どこの事業者が応募したかということは明かさないのが一般的です。今回対象の園も、8園ある内のどこだかというのは、公表しないという前提で募集をかけたものであります。</p> <p>今回公表した内容については、応募があった事業者がここまでならいいと、言ってくれた範囲のみとしています。どこの園に応募したかということは、今回公表する許可を得ていませんので、ご了承願います。</p>
委員	<p>今後、公立園の利用定員で、予定園児数に制限をかけていくという方向性があるということをお伺いしました。そうすると、移譲された場合、その園は制限をかける対象に入らないわけですね。その人数は、令和9年度の時点だったら、そのままの人数でいかれるということになりますよね。その園が近くにあったら、地域の園は大きく影響を受ける可能性があります。全体に公表するかは別として、公表がないと、その近くにある私立園は事業計画が立てられないです。職員をどれだけ抱えるのか、それにも影響します。これはかなりの圧迫になると思います。</p>
事務局長	<p>今回、サウンディング調査をして、その結果を市が評価した結果、民間移譲の公募をしたとしても、市が望むような形では応募がないだろうと判断して、今回対象となった1園も含めて、今の公立園は、計画期間中は民間移譲を基本的には実施しないという今回の個別再編方針なんです。なので、サウンディング調査の結果は、いわゆる不調に終わった、いったん白紙に戻ったという形です。</p>
委員	<p>魚沼市公立保育園等再編計画の12ページにある書き方だと、民間移譲に移るような書き方だと受け止めました。</p>
事務局	<p>サウンディング調査の目的として、円滑に民間移譲する方法について、民間の事業者と意見交換をすることが、一番の大きな目的だったりします。今回、たまたまその事業者から特定の園をご指名いただいて、そこを1例としてそういった意見を交わさせていただいたっていうところもありますので、お含みおきいただきたいと思います。</p>

議長	他にご意見ご質問ございませんでしょうか。
委員	<p>再編計画の3ページなのですが、令和1年就学前人口が1,303人、それに対して未満児から3歳以上の入園児が合わせて1,062人となっています。この差の241人は、例えば、家でおじいちゃんおばあちゃんが見てくれて保育園に入園していない子どもなのか、又は別の要因があるのかお聞きします。</p> <p>2つ目の質問ですが、人口減から生まれる子ども達がどんどん減っています。それはいろいろな要因があるので、一つ対策を取ればいいということではありませんが、魚沼市は県内で先駆けて子どもの医療費無償化をしました。魚沼市はいい施策を取ったと県下でも非常に驚かれましたが、そういうこともじわじわ効いてきて、出生数は減るけれど、減る具合が鈍化するという一因になってくれればいいなという期待もしているんです。保育園の子どもが減るということも心配ですが、でも、将来的に魚沼市の人口は減っているけれど、激減じゃなくて現状維持前後になっていけば、魚沼市の将来設計も立てやすいと思います。魚沼市の取っているいろいろな子育て支援策は非常に優れたものがあります。そういう施策がじわじわと出生率に反映していく、そういう兆しはないのかお聞きします。</p>
議長	それでは、事務局回答をお願いします。
事務局	<p>令和元年の1,303人と1,062人、この差ですが、保育園の入園に際しては、保育認定が必要なので、希望すれば誰でも保育園に預けられるということではありません。家で保育ができる方は保育園に預けられない、という制度になっているので、共働きの家庭は増えていて、預ける方がほとんどではありますが、そうではない家庭もあるということでもあります。</p> <p>次に、出生率の話ですが、魚沼市は、県内でも手厚い子育て支援策をしている方だと思います。この間も、新聞の報道で魚沼市の出生率は、県下6位に上昇したというふうに出ておりました。ただ、人口が増えていかない限りは、なかなか出生率の維持は難しいのかなという感じはしております。しかし、令和5年度に限って言うと、令和4年度よりも生まれた数は多かった、減らなかったというところありますので、そういった部分では、魚沼市の手厚い子育て支援が少しは効いているのかなという評価はしております。</p>
議長	この他にご質問ご意見はございませんでしょうか。
委員	意見ではないですが、先程の1,303名と1,062名の差の中には、幼稚園入園者が含まれているということですね。
事務局	はい。含まれております。

委員	<p>サウンディング型市場調査についてです。</p> <p>今回はうまくいかなかったということで話をされましたが、今後また、そういう機会があるのかどうかということと、先程、他の私立園も大変な状況になるから公表して欲しいという話が出て、そうするとやはり気持ちよくこの調査に臨めないという感じを受けました。なので、もう少し皆が納得いくような方法で調査ができればと思います。言い方は悪いですけど、足の引っ張り合いみたいな感じになって、本当に考えている人が、声を出せなくなるようではいけないと思います。私の園も、そういうふうになって園児が減れば大変なところもありますけど、それとやり方っていうのは別問題だと思いましたので、魚沼の子どもをどのように育てるか、どのような所に入れて充実させるかっていうところを皆で考えていければなというふうに思いました。</p>
事務局	<p>サウンディング型市場調査は、今回初めてやらせていただきました。今のところ、今後調査を実施する予定はありません。しかし、本再編計画の上位計画には、公立保育園の統廃合や民営化は計画検討することになっていきますので、計画期間内はこのようにさせてもらいましたが、今後、必要な場面もあるかもしれませんし、そういう動きが見えた時は、また実施する可能性はあります。ただ、やり方的には、やはり民間の事業者の皆さんがある訳なので、皆さんから理解が得られるような形でやっていけたらなというふうに考えております。</p>
委員	<p>あくまで調査結果について公表しない、なので、それは今回のやり方で適切だったと考えています。ただ、実際に応募がされた後の段階では、できるだけ早めの公表をお願いできるとありがたいです。</p>
事務局	<p>応募をする段階で、早めに公表をしたいと思います。</p>
委員	<p>公立保育園には公立保育園の良さというものもあると思います。今、無償化になっていて私立も入りやすいということもあるかと思いますが、公立でなければ入れないというメリットもあると思うんです。特に、病気を抱えている人、かなり重度な支援が必要な人は、公立が一番対応できるのかなと思いますので、確かに民営化で徐々に少なくしていくのはわかりますが、そういうところは考えていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>やはり公立だからこその保育もあろうかと思えます。なので、こういった公立、私立の園の皆さんと意見を交換するような場を通じまして、そういった意識も持ちながら進めてまいりたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
議長	<p>この議案について、他にご質問ご意見等はございませんでしょうか。よろしいで</p>

事務局	<p>しょうか。</p> <p>それでは、ないようですので、魚沼市立公立保育園等再編計画個別再編方針について、「異議無し」といたします。</p> <p>続きまして、魚沼市こども家庭センターについて、事務局から説明を求めます。</p> <p>(資料No.2 について説明)</p> <p>(質疑)</p>
委員	<p>教育センターの中に、幼児期、子ども期から学童期にスムーズに、一体的に移行できるように、専任の指導主事が一人採用になって、今、いろいろな部署と意見交換をしながら計画立案をし、令和5年度以降はそれが前に動き出す、そういう年度になると私に話をしてくださいました。今回のこども家庭センターとも関わりがありますので、教育センターに配置された指導主事の任務、働きとこども家庭センターが有効結合していくことを望むのですが、その兼ね合いを教えてもらえると、地域で子ども達の発達を応援している主任児童委員としても助かります。</p>
事務局長	<p>幼保小連携の架け橋教育のために、今年度から指導主事を1名設置して教育センターで勤務してもらっています。そこはまさしく保育園、幼稚園、こども園と小学校の接続のために働いていただいている訳ですが、今回のこども家庭センターと直接的に関係があるかということ、そこはやはり一応別の仕事であるということであり、ただ、こども家庭センターは、妊娠期から出産期、子育て期、学齢期と対象は広いので、その中の学齢期につきましては、教育センターと関わりがあることは当然考えられます。ただし、こども家庭センターの機能の中に、教育センターの一部が直接的に含まれるという性質ではございません。政策的には、教育センターは学校教育でありますし、こちらは福祉、母子保健の部分となります。とはいえ、実際の一人の児童のケースでは、両方のことが入ってくることは当然よくあることでありますので、そこはそれぞれの対応として、両センターが連携を図ることは想定されますし、今も一部はやっているというふうに認識しております。</p>
議長	<p>他にご質問ご意見等ございませんでしょうか。</p> <p>ないようですので、魚沼市こども家庭センターについて「異議なし」といたします。</p> <p>続きまして、その他について事務局から説明を求めます。</p>
事務局	<p>(資料No.3 について説明)</p> <p>(質疑)</p>

委員	<p>小学生用の回答ですが、前回は8割近い回答があって、今回は70%を切るという状況になっています。長期の休みを挟んだことが影響しているのであれば、次回は工夫をしていただけるといいかなと思いました。</p>
事務局	<p>調査期間は、前回と同様の期間で実施しました。回収率が低くなった原因はわかりませんが、考えられるとしたら、インフルエンザやコロナウイルスが、この年末年始にかけて小学校でもだいぶ蔓延していましたので、それが要因の一つかなと考えているところです。</p>
議長	<p>他にご意見ご質問ございませんでしょうか。 ないようですので、その他についても以上で終了といたします。</p>
議長	<p><b>4 その他</b> それでは、次第3「議事」については以上で終了とし、次第4「その他」について事務局からありましたらお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありません。</p>
委員	<p>保育園関係のいろいろな人数の資料を出される時のお願いがあります。 今、各園の定員を認可定員で計算していただいていると思います。認可定員だと、大体どこの園も建物に対して迎え入れる人数も入っていると思いますが、実際に園が動いている人数というのは利用定員ですので、認可定員を掲載されても、実際の園の動き、或いは園にどれだけ迎え入れることができるのか、それがわからないと思います。だから、こちらの資料もそうですし、保護者への案内関係に関しても認可定員と並べて利用定員も一緒に掲載していただくとわかりやすいのではないかなと思っています。 今後、定員のいろいろな検討が入ってくるということですので、そういった意味でも現実に即した数字を出していった方がいいのかなと思っています。よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございました。来年は、子ども・子育て支援事業計画改定の年でもありますので、そういったところも配慮しながら進めたいと思います。</p>
議長	<p>それでは、皆様からたくさんご意見をいただきましたので、確認したいところ等十分に確認していただけたのではないかなというふうに思います。ありがとうございました。 いただいたご意見等につきましては、事務局において今後検討していただくようお願いいたします。それでは、これをもって議事を終了させていただきます。</p>

事務局	<p><b>5 閉 会</b></p> <p>委員の皆様、活発なご意見等、大変ありがとうございました。</p> <p>また、佐々木会長におかれましては、スムーズな進行を大変ありがとうございました。</p> <p>それでは最後になりますが、事務局長が閉会のあいさつを申し上げます。</p>
事務局長	<p>長時間に渡り、大変ご苦労さまでした。ありがとうございました。</p> <p>今回、公立保育園再編に係る個別再編方針素案ということでお示しさせていただきました。やはり、平成 20 何年の頃に着手した頃よりも少子化が目に見えて進んでいるということもありまして、状況の変化がだいぶ激しくなっております。今回、個別再編方針ということでお示ししましたけれど、令和 12 年までには、いろいろな機会で見直さざるを得ないということもあり得ると思います。</p> <p>また、もう一つの議題でありました、こども家庭センターにつきましても、国としては少子化対策というようなこともありますし、子ども課のいろいろな事業については、少子化ということが避けて通れない、少子化に対応したいろいろな事業ということも今後必要になってくるのかなと思っております。</p> <p>また、委員の皆様方からはこの会議もそうですし、それ以外のところでもいろいろご指導ご助言いただければと思います。</p> <p>本日は大変ありがとうございました。</p>
事務局	<p>以上を持ちまして、会議を閉会といたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>